

とき  
たば  
ひら

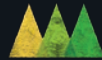
# 時の束を披く

ないじえる芸術共創ラボ展

— 古典籍からうまれるアートと翻訳 —

ないじえる芸術共創ラボ展

時の束を披く — 古典籍からうまれるアートと翻訳 —



ないじえる芸術共創ラボ

アートと翻訳による日本文学探案イニシアティブ

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国文学研究資料館



ないじえる芸術共創ラボ展

時ときの束たばを披ひらく

— 古典籍からうまれるアートと翻訳 —



ないじえる芸術共創ラボ

アートと翻訳による日本文学探検イニシアティブ

## ごあいさつ

ないじえる芸術共創ラボ展「時の束を披くー古典籍からうまれるアートと翻訳ー」に、よつこそお越しくございました。

ないじえる芸術共創ラボとは、二〇一七年十月に、文化庁の委託を受けて始まったプロジェクトで、誰にでもひらかれた歴史的文化的文化資源である日本の古典籍を、もつと多くの方に自由な発想で活用していただきたいという想いで続けてまいりました。

この展示では、約三年半にわたり、世界の第一線で活躍するクリエイターたちと、当館教員をはじめとするさまざまな分野の研究者とが、ともに古典籍をひらき、その魅力を探求してゆこうとする実験の過程で起こった〈化学反応〉をご覧いただきます。

クリエイターたちが、古典籍を発想の源として創作した、素晴らしい作品世界をじっくりとご覧いただきながら、彼らがその発想へ至るまでに様々な影響を及ぼした古典籍をも鑑賞し、創作の過程や、日本の古典がもつ大きな可能性をお楽しみいただきたいと思います。

古典籍は、その中に綴られている内容の世界だけではなく、その制作に携わった人々、それを手にし、読み、写し、保管し、あるいはどこかへ紛らわせてまた見出す、という書物自体が内包する記憶と時間を有しています。その「時の束」を、研究者やクリエイターたちと共に披き、過去と現在、未来に思いを馳せてみてください。

二〇二二年二月十五日

国文学研究資料館 館長

ロバート キャンベル

国文学研究資料館 館長

ロバート キャンベル



# 目次

ごあいさつ	2
凡例／参考文献	6
国文学研究資料館と古典籍について	8
ないじえる芸術共創ラボについて	10
ないじえる芸術共創ラボのあゆみ	12
<b>小説家 川上弘美</b>	16
作品紹介・ワークシヨップについて・関連古典籍図版および解説	16
小論文『伊勢物語』享受史と鉄心斎文庫 岡田 貴憲	29
コラム01「プロジェクト立ち上げのころ 小林 健二	32
<b>アニメーション作家 山村浩二</b>	34
作品紹介・ワークシヨップについて・関連古典籍図版および解説	34
小論文 夢を描くー古典における夢についてー 入口 敦志	47
コラム02「古典籍を未来へつなぐ小さな歩 束 芋	50
<b>劇作家・演出家・俳優 長塚 圭史</b>	52
作品紹介・ワークシヨップについて・関連古典籍図版および解説	52
小論文 黄表紙と戯作者京伝の魅力的な陰影 有澤 知世	67
コラム03「長塚圭史「KYODEN'S WOMAN」アナクロニズムの夢」	70
「戯作的」中央線文化が育んだ「ないじえる芸術共創ラボ」	70
延江 浩	70
<b>現代美術家 梁 亜旋</b>	72
作品紹介・ワークシヨップについて・関連古典籍図版および解説	72
小論文 魅惑の絵巻 恋田 知子	83
コラム04「ブックディレクターから見た「ないじえる芸術共創ラボ」 幅 允孝	86
<b>画家 松平 莉奈</b>	88
作品紹介・ワークシヨップについて・関連古典籍図版および解説	88
小論文 画譜のゆくえー絵手本についてー 木越 俊介	99
コラム05「投企する古典性」としての「ないじえる芸術共創ラボ」 飯倉 洋一	102
<b>翻訳家 ピーター・J・マクミラン</b>	104
作品紹介・ワークシヨップについて・関連古典籍図版および解説	104
小論文『扇の草子』の魅力ー三つの扉と三つの世界ー 安原 眞琴	115
コラム06「ないじえるというプリズムで日本文化を再考察する重要性」 塩野 入 弥生	118
<b>情景作家 山田 卓司</b>	120
作品紹介・ワークシヨップについて・関連古典籍図版および解説	120
小論文「東海道」の芸能と文学ー江戸時代の旅と浮世絵ー 山下 則子	129
コラム07「デジタル発和書の旅路 高羽 将人	132
<b>ビジュアルデザインスタジオ WOW</b>	134
古典籍との（基本的な）ふれあい方について	138
新日本古典籍総合データベースの使い方	140
出品リスト／奥付	142

- 本冊子は、国文学研究資料館の企画展示として、二〇二二年二月十五日(月)から四月二十四日(土)まで、国文学研究資料館展示室において開催する「ないじえる芸術共創ラボ展」時の束を披く―古典籍からうまれるアートと翻訳―の展示解説である。
- 本展示は、国文学研究資料館が二〇一七年十月より実施する事業「ないじえる芸術共創ラボ―アートと翻訳による日本文学探素イニシアティブ―」の成果展として企画された。
- 本展示および本冊子は、文化庁「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」の二環である。
- 本冊子は、各AIR・TIRによる創作と、その発想の源となった古典籍の世界観を表現するため、①各クリエイタープロジェクト説明②クリエイターの作品紹介③関連古典籍解説④展示古典籍の文学史的意義を述べる小論文⑤をひとつのパートとし、各パートの間には、本プロジェクトに関わった経験がある執筆者による「コラム」を配した。そのため、掲載順は、必ずしも展示の配列とは一致しない。
- 展示会場や誌面に記しきれなかったプロジェクトの過程や成果は、公式WEBサイトで公開しており、各ページへのリンクをQRコードで示した。
- 所蔵先を明記していない古典籍は、すべて国文学研究資料館所蔵本である。

執筆者一覧

- ありさわともよ  
有澤知世(国文学研究資料館特任助教)
- いりぐちあつし  
入口敦志(国文学研究資料館教授)
- おかだたかのり  
岡田貴憲(国文学研究資料館助教)
- きこしげすけ  
木越俊介(国文学研究資料館准教授)
- くめしおり  
糸汐里(国文学研究資料館特任助教)
- こいだともこ  
恋田知子(慶應義塾大学准教授)
- あさのあゆま  
佐藤悟(実践女子大学教授)
- やすはらまこと  
安原眞琴(立教大学兼任講師)
- やましたりのこ  
山下則子(国文学研究資料館教授)

※五十音順、コラム執筆者の情報は各記事に記した  
※記名がない記事は、有澤知世が執筆を担当した

芦澤美佐子「ひたすら生きる 芦澤美佐子歌集」短歌新聞社、一九八九

有木大輔『唐詩選版本研究』好文出版、二〇三三

有澤知世「戯作者の象徴―京伝・三馬に注目して―」『日本文学研究ジャーナル』第7号(二〇一八・九)

五十嵐公二「永納作品の制作年代」『塵界 兵庫県立歴史博物館紀要』第11号(一九九九・三)

大庭卓也編『江戸人、唐詩選に遊ぶ』(久留米大学文学部創立二十五周年記念特別企画御井図書館貴重資料展)『久留米大学文学部』二〇一七

大庭卓也「補説『唐詩選』成立の背景」『久留米大学文学部紀要 国際文化学科編』第32・33合併号(二〇一六・九)

太田昌子編『江戸の出版文化から始まったインターネット革命 絵本 絵手本 シンポジウム報告書』(金沢芸術学研究会、二〇一七)

狩野博幸「鍬形憲斎絵本の検討」『MUSEUM』第338号(一九七九・五)

国文学研究資料館「蔵書印データベース」

国文学研究資料館「図説「見立」と「やつし」 日本文化の表現技法」(八木書店、二〇〇八)

国文学研究資料館編「図説江戸の表現」『浮世絵・文学芸能』(八木書店、二〇一四)

児玉幸多「東海道分間延絵図」全24巻(東京美術、一九七七・一九八五)

小林健二「やうきひ物語」と『長恨歌絵巻』―江戸時代前期における絵巻製作の様相―『天谷女子大国文』第16号(一九八六・三)

小林宏光「中国版画史論」勉誠出版、二〇一七

小川宏光「近世画譜と中国絵画―十八世紀の日中美術交流発展史」(勉誠出版、二〇一八)

斎藤幸雄・同幸孝・同幸成「月夕」『江戸名所図会』(江戸須原屋茂兵衛等、一八三四・一八三六)

阪口弘之「古浄瑠璃・説経研究 近世初期芸能事情 上巻 街道の語り物」(和泉書院、二〇一〇)

山東京傳全集編集委員会編『山東京傳全集』第1巻〜20巻(べりかん社)

鈴木重三・木村八重子・大久保純「保永堂版 広重東海道五拾三次」(岩波書店、二〇〇四)

鈴木淳「光琳画譜」考『浮世絵芸術』第145号(二〇〇三・二)

鈴木淳「近世絵入り版本講座(ホームページ)」  
<http://teipconnect.rund.edu/tiaku/reiko/index.html>

谷峯蔵「遊びのデザイン―山東京傳 小紋雅話―」(岩崎美術社、一九八四)

谷峯蔵「花咲男」洒落のデザイン―山東京傳画「手拭合」―(岩崎美術社、一九八六)

鉄心斎文庫伊勢物語文華館『鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録 第1集、第21集』(九九・一〇三)

鉄心斎文庫伊勢物語文華館『鉄心斎文庫所蔵菅澤新二コレクション展 IV〜VI』(二〇〇三・一〇〇四)

西尾市岩瀬文庫「古典籍書誌データベース」

福井麻純「中村芳中とその時代―芳中にとつての光琳・俳諧・大坂―」『美学』第52巻第4号(二〇〇一・三)

藤川玲満「秋里離島と近世中後期の上方出版界」勉誠出版、二〇一四

安原眞琴「扇の草紙」の研究―遊びの芸文(べりかん社、二〇〇三)

山口由香「鈴木其の画風形成期における諸派習得の様相について 第二期「噂」落款使用期を中心に」『メタタイプヒアカ』名古屋大学大学院文学研究科教育推進室年報(第9号)(二〇一五・二)

山本登朗編『伊勢物語版本集成』(竹林舎、二〇一三)

吉海直人「百人首かるたの世界(新典社新書24)』(新典社、二〇〇八)

※配列は編著者の五十音順による



## 国文学研究資料館と古典籍について



国文学研究資料館WEB <https://www.nijl.ac.jp/>

東京都立川市にあります。略して「国文研(こくぶんけん)」と呼んでください。

半世紀にわたり、明治時代よりも前に日本で「作られた本」を調査、収集しているところです。「作られた本」と書いたのは、印刷されたものだけではなく、人の手によって写されたものも多くあるからです。国文研ではこれらを「古典籍」と呼んでいます。

ひとくちに古典籍と言ってもその内容は様々です。

『源氏物語』『百人一首』といったいわゆる「文学」だけではなく、旅行、医学、料理、デザインなど、様々なものがあります。

ひとつひとつの「本」に、文字や絵で、わたしたちの祖先の知恵や教訓が、あるいは普遍的な欲求や不安、哀しみ、喜び、生と死がつづられています。また、それぞれの「本」が、大切に受け継がれ、もしくは波乱万丈な道を経て、国文研までやってきた「物語」も背負っているのです。

国文研は、国内外の各地に存在する古典籍を広く求め、調査

をし、一点一点全文撮影を行った上で、その調査結果やデータを公開すること、そしてその成果を活用した共同研究を行うことをミッションとしています。

館内の地下にある大きな書庫には、重要文化財をふくむ古典籍が約二万二〇〇〇タイトル所蔵されており、さらにマイクロフィルムにして保管している画像のタイトル数は約二十八万点に及びます。

国文研は、日本のあらゆる文学資源を集め、学びたい人には誰にでも開かれた研究機関なのです。ぜひ、閲覧室や展示室、データベースを、気軽に覗いてみてください。

所蔵されている原本の多くはデジタルアーカイブされており、国文研が古典籍の情報や画像を公開している「新日本古典籍総合データベース」(140〜141頁)を利用して、世界中からアクセスすることができ、多くの画像を、一定のルールのもとで自由に使うことができます。また、利用登録をした上で必要な手続きを行えば、館内にある閲覧室で見ることができます。



プロジェクト公式WEBページ <https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/index.html>

## ないじえる芸術共創ラボについて

国文学研究資料館は、専門の研究者だけでなく、だれにでも開かれた機関ですが、当館の資料を利用する人はまだまだ限られています。

そこで、研究者以外の人たちに古典籍に触れてもらい、古典籍の魅力を活かした利用をしてほしい。そのことによって、新しい文化を創り出してゆきたい。

これがないじえる芸術共創ラボの目標です。

2017年10月、文化庁の委託を受けてはじまりました(2019年より日本博の助成事業)。



正式名称:「ないじえる芸術共創ラボ アートと翻訳による日本文学探索イニシアチブ」  
NIJL Arts Initiative: Innovation through the Legacy of Japanese Literature

### ラボを動かす三つの柱

ないじえる芸術共創ラボでは、専門家以外の人に古典籍の資料を活用してもらうために、レジデンス・プログラムを実施しています。レジデンス・プログラムとは、アーティスト等を招聘し、一定期間滞在しながら、創作活動を行ってもらうというものです。

「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」「トランスレーター・イン・レジデンス(TIR)」の2つのプログラムに加え、研究の世界とアーティスト・翻訳家の活動とを繋ぐ「古典インタプリタ」。これがラボを動かす三つの柱になっています。

ないじえる芸術共創ラボのロゴは、古典籍の森をイメージし、三つの三角形は森の木であると同時に、それぞれAIR、TIR、古典インタプリタを象徴しています。

### ワークショップについて

AIR・TIRと研究者によるワークショップが、ないじえる芸術共創ラボの心臓です。それぞれのAIR・TIRの関心に従って、古典インタプリタが、各ワークショップのコーディネートを行い、さまざまな専門分野の研究者が、館の内外から参加します。

ワークショップでは、研究者から古典籍や研究資料が紹介されることもあれば、古典籍の扱い方を学ぶこともあります。AIR・TIRからの質問に対して、講義が行われることもあります。AIR・TIRの創作の場に研究者も立ち入り、一緒に頭を悩ませることもあります。

AIR・TIRと研究者による協働により、日々、さまざまな化学反応が起こっています。

### Artist In Residence

=AIR

アーティスト・イン・レジデンス

様々な分野で活躍するクリエイターを招聘。古典籍に触れることで得た感性と知識を創作活動に活かしてもらうプログラム。

川上弘美氏(小説家)、長塚圭史氏(劇作家・演出家・俳優)、山村浩二氏(アニメーション作家)、松平莉奈氏(画家)、梁亜旋氏(現代芸術家)

### Translator In Residence

=TIR

トランスレーター・イン・レジデンス

翻訳家を招聘。まだ広く知られていない古典文学作品を他言語に翻訳し、世界に発信してもらうプログラム。

ピーター・小マクミラン氏(翻訳家)

### Classics Interpreter

古典インタプリタ

AIRとTIRが、古典籍の森に分け入り宝物を探すためのナビゲーションをする。専門知識を以て古典文学の魅力伝えるとともに、研究の世界とアーティスト・翻訳家の活動とを繋ぎ、「共創」の場をサポートする。

有澤知世(国文学研究資料館特任助教・博士(文学)、2017年10月-現在)

# ないじえる芸術共創ラボのあゆみ

2019.08

**イベント**「第二回 100人ぐりっ首一英語でとる百人一首一」@立川市柴崎学習館  
ピーター・小・マクミラン・神作研一ほか

**イベント**「山村浩二新作短編アニメーション「ゆめみのえ」完成試写会」  
@渋谷区ユーロライブ

山村浩二・長塚圭史・ロバート キャンベル・木越俊介・有澤知世



2018.12



**イベント**「デジタル発 和書の旅 ひるがえる和歌たち一扇と翻訳で古都に遊ぶ」  
@京都市有斐斎弘道館

ピーター・小・マクミラン・太田達・ロバート キャンベル・小山順子・有澤知世ほか

2018.10

AIR公募を経て  
松平莉奈が  
ラボに参加

2018.07

AIR公募を経て梁巫旋がラボに参加

**イベント**「100人ぐりっ首一英語でとる百人一首一」@立川市柴崎学習館

地元立川の中生たちと、マクミランさんの英訳になる百人一首でカルタ大会を楽しみました。

ピーター・小・マクミラン・神作研一ほか



©えくてびあん

©えくてびあん

2017.10



ないじえる芸術共創ラボ始動・記者発表  
@文化庁

3名のAIRと1名のTIR、そして古典インタプリタが初代メンバーです。随時、各AIR・TIRと研究者によるワークショップを行いました。それぞれの関心に応じて、さまざまな専門家から古典籍の紹介や講義がなされ、徐々にテーマを深めてゆきました～

2019

2018

2017

2019.05

**公開講座**「虚と実 東京藝術大学×国文学研究資料館」@横浜市東京藝術大学馬車道校

山村浩二・木越俊介・有澤知世



2019.02

**関係者向け公開イベント**  
「長塚圭史 新作戯曲試演会」@国文研

ワークショップの成果を短い即興劇に仕立てて上演しました。

長塚圭史・菊池明明・坂本慶介・成河・高木稟・藤間爽子・八十田勇一



2018.11



**イベント**「国際文芸フェスティバルTOKYO 地獄に響く声」  
@国文研

国文学研究資料館特別展示「折りと救いの中世」の連携企画。

伊藤比呂美・東芋・山下晃彦・Knob・ロバート キャンベル・木越俊介・恋田知子・有澤知世

2018.06

**イベント**「デジタル発 和書の旅 山村浩二、蕙斎に逢いにゆく」@国文研

山村浩二・ロバート キャンベル・木越俊介・有澤知世



「デジタル発 和書の旅」は、国文学研究資料館と凸版印刷株式会社が共同で行う出張型イベントのシリーズ名です。

2018.03

**座談会**「『伊勢物語』の魅力語る」@国文研



川上弘美・ピーター・小・マクミラン・山本登朗・藤島綾・黄昱・小山順子

記事▼  
[https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/artist\\_contents/kawakami/ise\\_taidan/index.html](https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/artist_contents/kawakami/ise_taidan/index.html)

**イベント**「デジタル発 和書の旅 湯とアートが鳴子であう」@宮城県大崎市鳴子温泉棧敷湯



山村さん・マクミランさんが、いま関心を持っているテーマにどのように取り組んでいるのかを語りました。また、キャンベル館長と古典インタプリタが、古典籍から、江戸時代の湯治文化や旅文化をひもときました。



山村浩二・ピーター・小・マクミラン・ロバート キャンベル・木越俊介・小山順子・有澤知世

※敬称略、順不同

History

History

2021.02

**対談** ピーター・J・マクミラン×木越俊介  
@国文研

**対談** 山村浩二×ロバートキャンベル  
@国文研

**特別展示**

「ないじえる芸術共創  
ラボ展 時の束を抜く  
古典籍からうまれる  
アートと翻訳」  
@国文研

2020.12



**イベント** 「デジタル発  
和書の旅 未知への旅」  
(動画配信) @国文研

松平莉奈・梁亜旋・木越俊介・  
有澤知世

2020.11

**個展** 「松平莉奈展 うつ  
しのならひ 絵描きとデジタル  
アーカイブ」@京都市  
ロームシアター京都

松平莉奈×古典インタプリタ  
による動画配信「どの先生に  
弟子入りする?」



2020.08

**イベント** 長塚圭史作・演出  
「KYODEN'S WOMAN」  
朗読上演 @国文研



2019.10



**イベント** 「デジタル発 和書の旅 古典籍×○○  
ラボであう・うみだす・みとおすー」  
@京都市Fab Café Kyoto

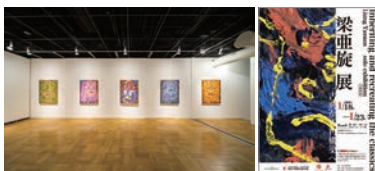
松平さんと梁さんの新作を展示した空間で、研究者との  
ワークショップでどのようなことを考えているのかに  
ついて語り合いました。

松平莉奈・梁亜旋・入口敦志・恋田知子・有澤知世

2021

2021.01

**個展** 「梁亜旋展 Inheriting and  
recreating the classics」  
@東京都



ワークショップや、公開イベントについて詳しく綴った  
「古典インタプリタ日誌」はこちらから  
<https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/diary/index.html>

動画コンテンツはこちらから  
[https://www.youtube.com/channel/UComv2mV\\_11JKz9H690ST-7w](https://www.youtube.com/channel/UComv2mV_11JKz9H690ST-7w)

ないじえる芸術共創ラボの活動を日々発信しているSNSは巻末に記載。



History

2020

2020.10



**対談** 川上弘美×  
ロバートキャンベル  
「君が語ったその話は  
君の物語なんだろう?」  
@東京都吉祥寺

2020.9

**対談** 「「古典インタプリタ」  
とは何か?」@国文研

ロバートキャンベル・有澤知世



2017年、2019年の対談も併せ  
て、ないじえる芸術共創ラボの  
WEBページよりご覧いただけます。

2020.03

**座談会** 「小説『三度目の恋』完結記念座談会」  
@吉祥寺第一ホテル



川上弘美・山本登朗・小山順子・  
有澤知世

**記事** ▼  
[https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/artist\\_contents/kawakami/sandome\\_taidan/index.html](https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/artist_contents/kawakami/sandome_taidan/index.html)

**対談** ピーター・J・マクミラン×ロバートキャンベル  
「翻訳をとおして発見した日本文化の魅力  
『扇の草紙』の和歌の見どころ」@国文研



**動画** ▼  
[https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/artist\\_contents/macmillan/og2/index.html](https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/artist_contents/macmillan/og2/index.html)

History